

奔別 アートプロジェクト 2013

Ponbetsu ART Project

<http://pon.soratan.com>

2013年9月21日(土)～11月3日(日) 土・日・祭日のみ 16日間の開催

10:00～17:00 入場は16:30まで

観覧無料

北海道三笠市にある旧住友奔別炭鉱・選炭施設(石炭積み出しホッパー)を再び会場に、アートの力で炭鉱遺産の価値と記憶を甦らせ、炭鉱の記憶と人々を繋ぎます。

会場

旧住友奔別炭鉱・選炭施設内石炭積み出しホッパー



公共交通機関

中央バス岩見沢ターミナルから
三笠線幾春別下車

岩見沢ターミナル
TEL:0126-22-0761

時刻表についてはホームページをご覧ください。

駐車場

旧住友奔別炭鉱正面入口(会場正面)
道道116号を桂沢湖・富良野方面へ走行し、
中央バス幾春別町バス停前の信号を左折、
突き当り

主催: 札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

共催: 炭鉱の記憶推進事業団

助成: 文化庁



大学を活用した文化芸術推進事業



協賛: 公益財団法人 福武財団

協力: 幾春別連合町内会

株式会社 ホッコン

創造都市 さっぽろ・国際芸術祭実行委員会

三笠市

MIKIKO SATO GALLERY

NMA



Ponbetsu ART Project

奔別炭鉱は、明治35年に開鉱し、昭和46年閉山。ホッパーは石炭を搬出する際に種類分けして積み込む施設です。1960年に完成した奔別炭鉱のホッパーは長さ100メートル、幅13メートル、高さ20メートルと国内最大級で、内部には石炭貨車の引き込み線もありました。

会期

2013年9月21日(土)～11月3日(日)

土・日・祭日のみ 16日間の開催

9/21,22,23,28,29 10/5,6,12,13,14,19,20,26,27 11/2,3

公開制作：9月17日(火)～20日(金)

オープニングセレモニー

9月21日(土) 13:30～ 参加無料

会場:旧住友奔別炭鉱石炭積み出しホッパー前ひろば

出演:サウンドアーティスト 大黒淳一/ドラム缶オペレーション 永田壘

口上パフォーマー 祭太郎/ジャンベ太鼓・縄文演奏家 茂呂剛伸

※この日の12時～15時発のガイドツアーはお休みします。

受付

会場入口部のセンターハウスにて、会場説明、注意事項の確認を頂き、同意の下、入場して頂きます。ガイドツアーの申込受付もこちらで行います。

ガイドツアー

10時から16時30分まで、00分と30分の計14回実施します。1回のツアーは45分程度。希望者はセンターハウスでお申し込みください。

※受付を済ませれば、ガイドなしで自由に見学することも出来ます。

関連行事

ぶらぶら幾春別 10月19日(土) 13:00～14:30

奔別アートプロジェクトセンターハウス前集合 参加無料

炭鉱を支え続けた幾春別のまちを歩きます。地元の商店や神社などにも立ち寄ります。

主催：NPO法人炭鉱の記憶推進事業団

セミナー「歯輝歯輝(はきはぎ)～お口から健康に」
10月14日(月) 14:00～15:00

幾春別・中島町集会所(三笠市幾春別中島町285番地)

札幌市立大学看護学部 村松真澄准教授

4年生(田中夏未、齊下瑞希、三木帽子、中川千夏)、3年生(中川原英恵、澤口夏澄)

その他、来場者の方、地域の方とコミュニケーションをとれるような場を用意します。詳細はホームページをご覧ください。 <http://pon.soratan.com/>

! 展示会場は足場が悪くなっておりますので、動きやすい格好でお越し下さい。
! ホッパー以外の場所(立坑やホッパーの裏など)は、危険につき立ち入り禁止です。
! プログラムを変更することがありますので、最新情報はホームページでご確認下さい。

参加アーティスト

ゲストアーティスト(敬称略)

■ ウエダリクオ 1950年大阪生まれ。世界各地で風のドローイング(Wind Draing)を精力的に展開している。長い木の枝で風を受け、取り付けられたベンが融通無碍の風ドローイングを描く。

■ 伊東篤宏 1965年生まれ。美術家、OPTRONプレーヤー。90年代より蛍光灯を素材としたインスタレーションを制作。蛍光灯の放電ノイズを拾って出力する「音具」、OPTRONを制作、命名。展覧会会場などでライブ活動を展開。

■ 端 聡 1960年北海道岩見沢市生まれ。美術家、札幌ビエンナーレ・プレ企画2011芸術監督、CAI現代芸術研究所代表、NPO法人S-AIR理事、2004年札幌文化奨励賞受賞。2012年北海道文化奨励賞受賞。

■ 澁谷俊彦 1960年北海道室蘭市生まれ。アトリエトライアングル主宰。蛍光塗料の反射による場との共鳴を求める作品づくりを行う美術家。

■ 坂巻正美 1961年千葉県生まれ。彫刻家(北海道教育大学教授)。ロシア極東から北米北西海岸、北海道や東北など、北方圏の自然を背景とした伝統的生活や生態系文化を探訪し、フィールドワークのドキュメントとして作品を発表している。

■ 伊藤隆介 1963年札幌市生まれ。北海道教育大学教授。ファウンド・フッテージ(既存の映画や他人が撮影した映像など)を使用した映像のコラージュ作品や、ビデオの即時性、映像特有の「サイズの喪失感」などをテーマとしたインスタレーションも多く制作している。マンガ・アニメ評論家でもある。

■ 高橋喜代史 1974年妹背牛町出身、札幌在住。1999年CAIアートスクール卒業。「境界線」をコンセプトに、様々な文化や歴史を混合した作品を制作。

■ 今村育子 1978年札幌市出身、在住。日常の中の出来事を幻想的なインスタレーションで光や影、闇を駆使して表現するアーティスト。

■ 柏尾和直 1977年釧路市出身、京都在住。映像作家。実写、パペット、コラージュ、ドローイングと多彩なアニメ技法を駆使し、不条理とエロスを混沌・溶解させるような作品を制作。オブジェを使ったインスタレーションやパフォーマンスも制作している。

■ SARD(浅見和司・梅村守・酒井裕司・町谷浩幸・松田建夫・嶋田健一)
札幌地域デザイン研究会。1997年に札幌市立等専門学校リカレント講座に集まったデザイナー、クリエイターを中心に結成。第4回札幌国際デザイン賞入選。空知地域では幌内変電所におけるインスタレーション「電気エレキ光展」をはじめ、幌内布引、奔別アートプロジェクト参画。

札幌市立大学

■ 上遠野敏 1955年福島生まれ。札幌市立大学教授。日本各地の神仏の現れの写真シリーズ「ネ・申・イ・ム・光景」。生命の循環をテーマにしたインスタレーションや炭鉱の記憶を掘り起こす作品を制作。過去4回の炭鉱遺産のアートディレクターを務める。

■ 上遠野研究室学生(4年生、大学院1年生)
大野菜月・笠谷奈央・小坂友梨・澤出有里・前川沙綾・三沢可奈・余蕾

■ 美術部 nou me non
4年生(上田瑞穂・諏訪敦美・山崎美咲・山本美星子・横山咲希・世永千尋)、3年生(生田友希・大塚めぐみ・菊池はるか・野上あかね・長谷川涼一・東出佳子・平中麻美子・三ツ川詩織・横山航)、2年生(井上かの子、木村さつき、沼田幸太郎、前川莉菜)

お問い合わせ：そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター 0126-24-9901
岩見沢市1条西4丁目3 10:00～18:00(火曜休)